みいけ主婦會

※原稿の送り先
大牟田市不知火町二丁目
三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき
市内三〇三三・七一四〇
炭鉱　四七四・五二八
※責任者　文教部長
川畑　信子

話合いから發展へ

港務主婦会で地域交流始む

組織をかけた闘いが私たちの頭上に大きく覆いかぶさっています。いかなる情況にも応じる態勢が、いま、組合・主婦会のなかで急速にそして強力につくられていますが、港務支部主婦会ではさきに当面の活動方針をきめ、その手はじめとして去る七月三十日、地域分会どうしの学習・交流会をひらいた。はじめてのケースとして注目されていましたが、お互いうちとけた交流のなかから、いままでにない多くの成果をつかみとることができました。以下はこの日におこなわれた学習・交流会のあらましです。

運動には理解を

港務支部主婦会で、はじめての学習・交流会を午前十時から港友クラブでひらきました。当日の交流は平井分会と南分会。平井分会からは班長さん以上が参加して、地元の南分会は全員が出席しました。交流にさき立つて、本部教宣部長の永田さんを講師として迎え「中央情勢と首切り闘争に対する私たちの心がまえ」と題したお話があります。

このあと全員を三班にわけて、各テーブルごとに話合いがおこなわれたのです。

三班に分けたことで非常に交流が自然な形ですすめられ、台所を守る主婦たちの発言は活発なものとなつて、貴重な意見、建設的な発言がつぎつぎと出されました。

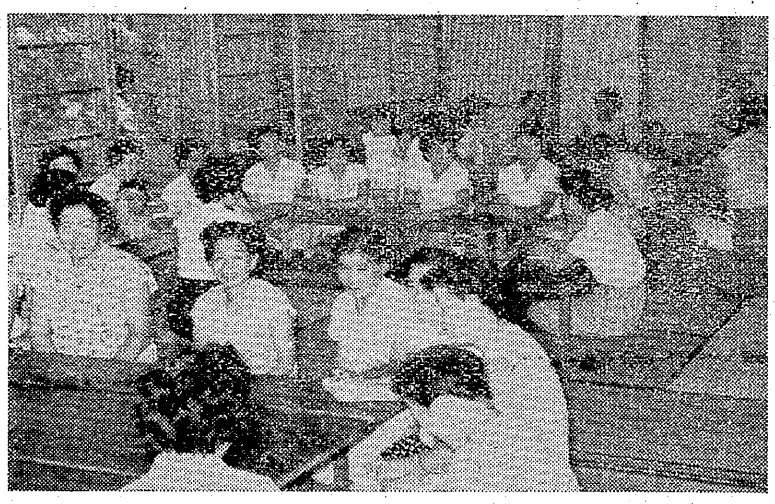
まず、主婦会のあり方と現在の行動面について、欠陥と利点を出しあいながら、現在の闘いをどうながめて闘つていくかが分科会の中心になつて話合われました。

平井の人は南に、南からは平井分会の人たちに「役員会はどうやつてひらいていますか」「組合から何かいつてきたときはどういう会議で、運営していますか」など質問して主婦会としてはこうあるべきですという結論が出たり、一般に悩みとなつている「役員になりたがらない」という問題については、選出方法などが話合われました。

支部役員として南分会から新役員に出ている桑原さんは「私も最初は役員にでるのをしぶりました。のり気でなかつたのですが、実際出てみて役員会とか、支部の執行部と話合つた中で、私が経験したことは、主婦会がいかに労働組合と一緒になつて闘つていかねばならないかということを闘いの中で痛感しました。いままでは食わずぎらいだつたといえます。みんなでお互いにかばいあいながら率先して役員に出なければならないとつくづく思いました」と貴重な発言をされているのが注目されています。

なお、この第一回にひきつづき、つぎは新港と臼井、四山と松原が予定されています。

× × ×



三分科会に分れて交流する主婦

水道端会議

七月二十六日の投書を見て意見をのべさしてもらいます。

〃みいけ主婦会〃の欄の文教部長は「仲よし運動」をすすめているといわれますが、何の「仲よし」なのか。

このたびの一主婦会員の投稿をお読みしてもわかるように、このようなにがい苦しみをしている人は私は少くないと思います。私たち婦人組合員も同感だと思いますいや自分一人かも知れませんが。

昼間は出勤して、会社から帰ると、水道端で好ましからぬ話を耳にするものです。自分は働かなくては生活はできないし、それに水道端会議にも出られる身分でもなし、水道端でのおしゃべりの主婦会員と婦人組合員は、どうしてもシツクリ行きません。

貴女は「仲よし運動」だとあんなことをいわれますが、水道端でのおしゃべりは決していいお話ではありません。

お手数ながら貴女の責任上、調査方をお願い致します。

一婦人組合員

〃みいけ主婦会〃欄を設けていらい、主婦からの建設的な意見がぞくぞくと寄せられています。投書のなかで「水道端会議」をめぐつてそれぞれの意見が出されているほか「平和」問題についての投書もみられています。

主婦会の前進のためにも、私たちはこの投書を、たんに読みつぱなしでなしに、これをもととして意見を出しあい、討論の場としての足がかりとする必要があります。

そういう意味から、本紙は〃姿見〃の特集をこころみました。

平和行進を見送つて

金世界の人びとが願つている平和！！。今年もまた、広島をめざして東、西、南から「戦争反対」「原水爆禁止」「安保改定反対」を願い、力強く叫びながら大行進が行われました。

九州班は十三日午前九時、大地評のブラスバンドが「原爆許すまじ」を奏でたのち、大牟田市役所の前を出発しました。

いままで何度となく歌い聞いた「原爆許すまじ」のうた……。何度聞いても新たな怒りがこみあげてくるのをどうすることもできませんでした。

人殺しの武器―原爆―。行進者の中の被爆者の方はどんな気持ちでうけとめたことでしょう。

この中には遠くは南の与論島や他の代表者四名の方が、途中豪雨のため大水害に合いながらの長旅に疲れも見せず、元気な姿で先頭に、また「戦争はもういやだ」と背中に染めぬきの揃いのハツピ姿の大牟田代表者の後姿も、実に印象的でした。

行進する人、それを見送る者。お互いの心が一致したこの気持ち一日作家の私には、ここに十分きあらわすことのできないのが本当に残念です。だが、この歓送会の中に組合員・主婦会員の少数だつたのには、何だか行進者の方にたいして気の毒でなりませんでした。

昨年もそうでしたが、今年もまた総人員に比較したらほんの少数にすぎないように思いました。今年こそは多数の会員の方とお送りできるだろうと期待していましたが……。

行進者の方たちは、私たちの一人ひとりの平和を願う声に支えられながら、あの豪雨にも、この炎天下にも、ともに平和を願う目的で黙々と足を捲のようにして進んでおられました。行進者の人たちにただ願いを託すことだけではなく私たち一人ひとりの問題は、一人ひとりが自からの運動をすすめて行かなくてはならないと思いました。

戦争のない平和な社会がおとずれるまでは、いつまでもつづけられるでしよう平和行進！！。今年よりは来年、またつぎの年と、ひとりでも多くのへが、一歩でも二歩でも行進に参加され、歓送会に参加してくださいますようお願いする一人です。

通信簿

「お母さん只今！はい通信簿」丸い顔を紅潮させ、これまた丸い目をくりくりさせて、今年一年生になつた次女。三月末に生れやつと六才になつたばかりで入学したちつちやくて何にも知らなかつた子だつたのに、通信簿を開くと案外好成績なのにびつくりした。

思えばこの子が生れて五カ月目あの雨の中の首切り返上デモ、本所襲の抗議大会に、背にくくりつけて参加したものだつた。三才になつた頃より私が会議に列席するそのそばで同じように、鉛筆でノートにお人形を書いておとなしく座つていたものだつた。最近やつと一人で会議にも出席できる身になり、「お母さん今日は会議よ、学校から帰つたらおりこうに遊んでつてね」。瞬間さみしそうな顔はするが、「うん、姉ちやんが帰つてくるまで涼子ちやんと遊んでもらう。おべんとうをつくつておいてね」子供たちを学校へ送りだし、おべんとうと十円玉を飯台の上において家をでる。

七月五日のこの欄にあつた三作支部の一主婦の方の〃よき妻、よき母〃とはおよそ似つかぬ母の存在ではあるが、幸いにして二人の子供達は忙がしい母を幼いながらよく理解し協力してくれるのです。

通信簿ですべてを評価することはできないとしても、ともかく子供は子供なりに努力しているのです。この子等のために私は家庭のみの平和は求めない。夫だけが闘つている時ではないのです。主婦会は先駆者となつて他の婦人団体に呼びかけ立ち上つているのです。

金世界への平和を目指して！

三川（高崎　文子）

「人の口は憎い」

（一主婦）

七月二十六日附「みいけ主婦会」欄の投書をめぐる論議について一言。

投書をされた方もそうした日々の状況を見るに見かねて訴えられたものと考えます。

いう人いわれる人お互いに何らかの事情はあることでしようが、いかなる場合でも聞こえよがしの悪口とか、皮肉などということは実に陰険、かつ卑劣なやり方だと憤まんに堪えません。

その居住区は非常にうるさいところで、気の弱い人はビクビクというところから考えると、相当のつわ者がいて、町内を牛耳つているようにも考えられます。もちろん分なら、嫌味でなく正面からいうべきであり、諒解できるまで問い質すことは決して悪いことではありません。

また、いわれる方の人達が不愉快さを逃れるために、早朝から家を明け、貴重な時間を殺し、日々不安な状態で生活されるなど、まつたく考えられないことです。なぜ逃避的にならず相手と話しあいその上で悪い所は改め、自分から手を握るぐらいの勇気がないのか残念に思います。

そして自分の正しいところも納得のいくまで主張すべきでありましよう。もつとも、当人が逃避でなく、毅然として相手を無視し得る性質の人ならばことは別です。ずつと前読んだことですが、あらぬ陰口をいわれて面目を失し、相手を斬り自分も死んだ息子のために、日頃は沈着温順な武士が悲憤に堪えかね、相手の親と果し合い討ちつ討たれつ最後の息の下で「人の口は憎い」と一言いつたというのですが、いまでもときどきフツと思い出します。

主婦会は強い、素晴しい組織だと自他ともに認めてきたその強さと団結力でさえ、こうした日常茶飯事から、案外もろく崩れるものであるということを、肝に銘じて省みる必要があるのではないでしようか。

万田山下町（磯元　よし子）

私は想う

宮浦　林　みよか

八月一日から今年もまた「第五回原水爆禁止世界大会」が広島で開かれようとしているが、今年度の大会にはいろいろと問題があるようです。第一には地元の広島県議会が県費三十万をだすことを拒否し、北村秋田県知事の会長辞任と島根県連合婦人会の原水協脱退青年団の大会代表辞退等々、私が新聞で見たばんいではあるが、こうした一連の動きは何を物語つているのだろうか……。

核武装につながる安保条約改定反対のスローガンに、政治的ないとがあるとして毛嫌いしているようだが、もう一度原水爆禁止大会が開かれるようになつた過去をふり返つてみる必要があると思う。

昭和二十九年第五福竜丸がビキニで死の灰をかぶり、尊い犠牲者の久保山さんを出したことは皆様の胸にいまだ記憶があると思いますあの事件をきつかけにして、東京杉並のお母さん方が立上り、原爆反対の署名を集めたのが第一歩だときいております。この小さな集りが国民にあの悲惨な広島、長崎を想い出させ、もう二度と原爆による犠牲者を出してはならない、戦争はいやだという国民感情が一つにもり上つて、今年度の広島大会にまで発展してきたのです。過去五年間の歩みは、ただ原水爆はぜつたいに禁止しなくてはならないという全国民一人一人のねがいが一つになつて、この大会はあくまで党派をこえて、国民のものとして発展してきていると思うのに今年度にかぎつてなぜ……問題になるのか。安保条約は日米共同防衛のためにつくられた条約で、その条約を改定して核武装はしないといいながら、岸さんは一歩一歩核武装に近づこうとしている。

私たちばくわしい内容はわからないが、国民の多数の人々が「改定は反対だ」といつているのだから、一つの運動として取上げスローガンにかかげているといつて、どうして、こう神経質にならなくてはいけないのか。

原水協脱退とか、県費を出さないとか、こういう動きをする方こそ、何か私たちは自民党と一連のつながりをもつているように思う……。安保条約改定のスローガンが、この大会に問題があるような見方をされるのは、大なり小なり至るところで起つている一つの集団生活の表われでもあります。人のすることなすことひが目で見る。多勢の人中で目引き袖引きという嘆かわしい「長屋のカミさん」的存在は後を絶ちません。正当ないうことを忘れてはならない。団体とか政治とかの偏見にとらわれず本当に党派をこえて、国民一人一人の「原爆は反対だ戦争はイヤだ」という悲願に立つて、この運動を進めていつてもらいたいと思う。

海水着と子供

海に山に体力をきたえる夏がやつて来ました。先日、もうそろそろ子供達の水着を出しておこうと行李の中をしらべていましたら、末の女の子の水着が出てきました黄色地に真赤な線の入つたあざやかな水着でしたが、もう三年目になり、白つぽくなつたし、今年一年生のあの子に着せられるかしらとながめていますと、女の子が入つて来て、色はあせているが、なつかしい自分の水着をみつけ、よろこびのかん声をあげ、「いま着てもいいでしよう？　ねえねえ」という。「だめですよ。海水浴に行くときか、プールに水が入つてからそこでおよぐときに着せてあげますよ」という母の言葉にぶりつと、ほつぺたをふくらして、あそびに出ていつたが、また夕方食後、こんどはさも名案が深んだように、にこにこしながら「ねえ、お母さん、そんならお風呂に行くとき着ていつていいでしよう？」という。私はその突つぴようしな言葉にびつくりしたが、「あゝ、いいでしよう。そんなに着たいなら」と答えてしまう。

そこで水着の子供と手をつないで、社宅の風呂に行く。脱衣所ではさすがに気まずそう。

お風呂に入るとき、あたりの人の眼の一斉攻げきにあい、ますます困つた顔をして湯つぼに入りきらず、母だけ入れてもじもじしている。

「あのねM子ちやん、海水浴はね、お外でみんなが元気な強い体になるようにおよいだり、あそんだりするので水着を着るのだし、お風呂は体をきれいに洗うために入るのだから誰でもはだかなのよ」といいますと、こつくりして「お母さんやつぱり海水着ぬいでくるわね」といつて上つていつた。

三川（藤枝　文子）